

土地改良事業計画書

1. 目 的

本地区内の水路を整備することにより農業の振興、農業用水の安定供給と集落及び地域の活性化を図る。

2. 地域、地籍及び現況

(1) 所 在 香川県仲多度郡まんのう町造田地内

(2) 地 積 受益面積 1.8 ha 関係戸数 9 戸

(3) 現 況 当地区は、まんのう町造田の西部に位置した、水田地帯であり、水稻が中心の営農であり、地区内の水路は、老朽化が進んでいることから、漏水著しく通水障害がおきている。併せて、大雨時等には排水に支障をきたしている。

3. 一般計画

- ・ 本地区の1戸当たり平均耕作面積は、20アールと零細で土地が分散しているため、生産基盤が未整備である。
- ・ 水路の整備をすることにより、地域農業の振興と生産性向上のため、維持管理の軽減を図る。
- ・ 水田に囲まれた田園地帯であることから、周辺の環境に配慮した整備とする。

4. 主要工事計画

(1) 水路延長 137 m 起点：まんのう町造田2181番地地先
終点：まんのう町造田2163番地1地先

(2) 水路断面 $B = 0.4 \text{ m} \times H = 0.4 \text{ m}$

(3) 構 造 二次製品水路

5. 付帯工事計画

該当なし

6. 工事の着工及び完了予定期間

着 工 令和8年9月29日

完 了 令和9年3月31日

7. 環境との調和への配慮

本地区における環境との調和への配慮は、自然の生態系を保全しつつ、農地の持つ多面的機能や自然環境を維持するよう整備を進める。

8. 本施設の維持管理

本施設の維持管理については、まんのう町土地改良区において管理する。

9. 事業費の総額及び内容

(1) 事業に要する費用

区 分	金額(千円)	備考
工 事 費	6,848	
用地買収補償費	0	
測量試験費	752	
工 事 雑 費	0	
事 務 費	0	
計	7,600	10a当りの事業費 422,222 円

(2) 資金計画

区分	金額(千円)	備考
補助金	国補助金	-
	県補助金	3,800
	市町補助金	1,900 事業費の25%
	小計	5,700
地元負担金	受益者負担金	1,900
	借入金	- 農林漁業資金 利率 0 償還期間 0 賦課基準
	小計	1,900
	計	7,600

10. 事業効果

区分	金額(千円)
作物生産効果	603
維持管理節減効果	95
走行費用節減効果	0
その他	0
年総増加額計	698
廃用損失額	-

n : 30 総合耐用年数
 T : 1 事業着手から効果発生年数
 i : 0.04 割引率
 資本還元率 : $i(1+i)^n / (1+i)^n - 1$
 建設利息率 : $0.25 \times 0.4 \times 0.065 \times T$
 農家負担率 : 0.25

$$\begin{aligned}
 \text{妥当投資額} &= \text{年総増加額計} \div [\text{資本還元率} \times (1 + \text{建設利息率})] - \text{廃用損失額} \\
 &= 698 \div [0.0578 \times (1 + 0.0065)] - 0 \\
 &= 11,993
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 \text{投資効率} &= \text{妥当投資額} \div \text{総事業費} = 11,993 \div 7,600 = 1.57 \\
 &\text{※投資効率は基準値は1.00以上とする。}
 \end{aligned}$$

11. 計画図

(1) 位置図

別紙のとおり

(2) 平面図

別紙のとおり

(3) 標準断面図

別紙のとおり

土地改良事業施行事由書

本地区の1戸当たり平均耕作面積は、20アールと零細で土地が分散しているため、生産基盤が未整備である。

また、地区内の水路は、老朽化が進んでいることから、漏水著しく通水障害がおきている。併せて、大雨時等には排水に支障をきたしている。

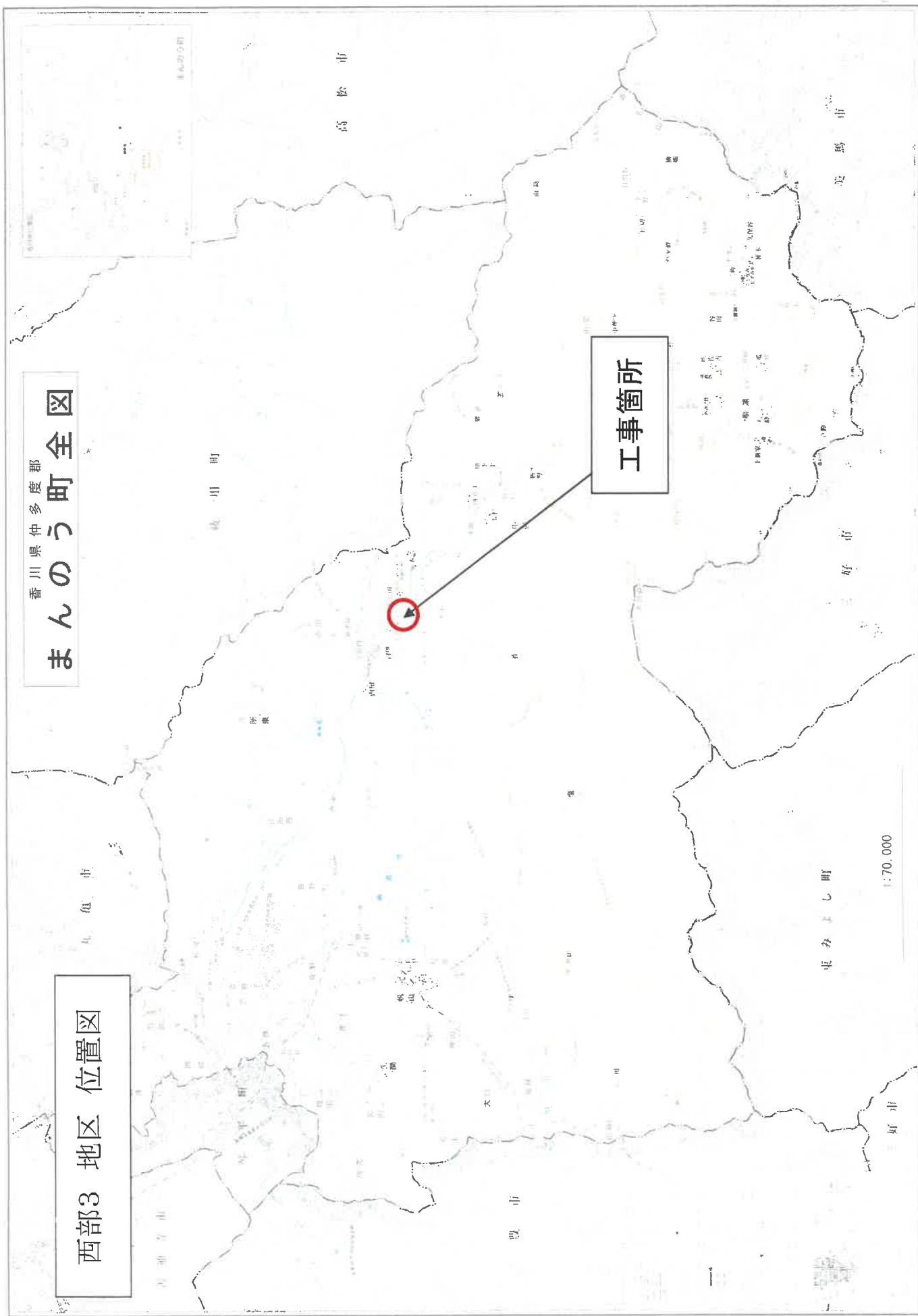
そこで、本施設を改修整備することにより地域農業の振興、生産性の向上・維持管理の軽減及び地域の活性化を図る。

西部3 地区 位置図

香川県仲多度郡
まんのう町全図

工事箇所

1:70,000





梅、木原

1.8ha

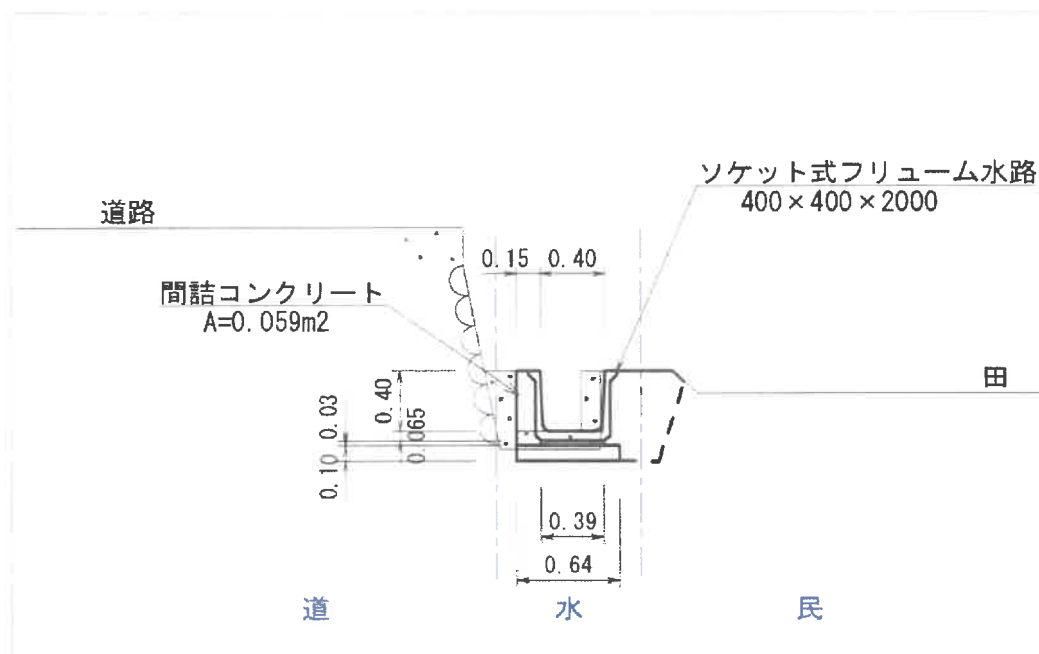
SF400型
L=137m

凡例	
令和7年度まで	
令和8年度施工	
令和9年度以降	
受益地	

西 部 3 地 区



標 準 断 面 図
S=1:50



まんのう町土地改良区定款

まんのう町土地改良区定款

第1章 総 則

(目的)

第1条 この土地改良区は、農業生産の基盤の整備及び保全を図り、もって農業の生産性の向上、農業総生産の増大、消費者の需要に即した農業生産推進、農業構造の改善及び農業生産活動の継続的な実施に資することを目的とする。

(名称及び認可番号)

第2条 この土地改良区は、まんのう町土地改良区という。

2 この土地改良区の認可番号は、香川第297号である。

(地区)

第3条 この土地改良区の地区は、次に掲げる地域（その地域内にある土地のうち土地原簿の記載に係る土地以外の土地を除く。）とする。

市町村名	大 字 名	地 域
まんのう町	造田、川東 炭所東、炭所西、長尾 吉野（蛭池水系のみ） 五條、岸上、神野、真野 羽間、東高篠 佐文、塩入、七箇、帆山 後山、大口、新目、山脇 追上、宮田、買田、生間	一円の田、畑

(事業)

第4条 この土地改良区は、土地改良事業計画、定款、規約、管理規程及び利水調整規程の定めるところにより、次に掲げる土地改良事業を行う。

- 一 かんがい排水施設の新設又は改修
- 二 農道の新設又は改修
- 三 区画整理
- 四 土地改良施設の維持管理
- 五 農用地又は土地改良施設の災害復旧

2 この土地改良区は、前項各号の事業に附帯し、農地中間管理機構から委託される事業について、これを行う。

3 この土地改良区は、第1項各号の事業に附帯し、その事業を害しない範囲内で当該施設を他の目的に使用させることができる。

- 4 この土地改良区は、県営土器川右岸用水改良事業によって造成された施設を共同して維持管理するため、土器川右岸土地改良区連合に所属する。
- 5 この土地改良区は、国営土地改良事業及び県営土地改良事業によって造成された施設を譲与又は管理委託される場合は、これを受託する。
- 6 この土地改良区は、第1項各号の事業に附帯し、多面的機能発揮促進事業又は中山間地域等直接支払事業に係る活動組織に参画することができる。
- 7 この土地改良区は、第1項各号及び前項の事業を行うに当たり、当該活動組織からその事務を委託される場合は、これを受託することができる。

(事務所の所在地)

第5条 この土地改良区の事務所は、香川県仲多度郡まんのう町吉野下1398番地2に置く。

(公告の方法)

- 第6条 この土地改良区の公告は、まんのう町役場の掲示場に掲示してこれをするとともに、土地改良事業(国庫補助事業)に係る公告の内容についてインターネットを利用して公衆の閲覧に供する方法を併せて行う。
- 2 前項の公告の内容は、必要があるときは、書面をもって組合員に通知するものとする。

第2章 会 議

(総代会)

第7条 この土地改良区に総会に代わるべき総代会を設ける。

(総代の定数)

第8条 総代の定数は、80人とする。

(総代の選挙)

- 第9条 総代は、組合員が総会外においてこれを選挙する。
- 2 この定款に定めるもののほか、総代の選挙に関し必要な事項は、附属書総代選挙規程で定める。

(総代の任期)

- 第10条 総代の任期は、4年とし、総選挙により選挙された総代の就任の日から起算する。ただし、土地改良法(以下「法」という。)第23条第4項において準用する法第29条の3第1項の規定による改選並びに法第136条の規定による選挙又は当選の取消しによる選挙によって選挙される総代の任期は、退任した総代の残任期間とする。
- 2 前項ただし書に規定する選挙が、総代の全員にかかるときは、その任期は、前項ただし書の規定にかかわらず4年とし、その就任の日から起算する。

(総代の失職)

第11条 総代がその被選挙権を失ったときは、その職を失う。

(通常総代会の時期)

第12条 この土地改良区の通常総代会の時期は、毎事業年度1回3月とする。

(組合員の請求による会議招集)

第13条 組合員が、総組合員の5分の1以上の同意を得て、会議の目的である事項及び招集の理由を示して、書面により総代会の招集を請求したときは、理事は、その請求があった日から20日以内に総代会を招集しなければならない。

(書面又は代理人による議決)

第14条 やむを得ない理由のため、総代会に出席することができない総代は、あらかじめ通知した事項について、書面又は代理人により議決権を行うことができる。

2 書面により議決権を行おうとする総代は、あらかじめ通知のあった事項について、書面にそれぞれ賛否を記載し、これに署名又は記名押印の上、総代会の会日の前日（通知で別に定めるときは、その日時）までにこの土地改良区に提出しなければならない。

3 総代の代理人は、書面により代理権を証明しなければならない。

(議決方法の特例等)

第15条 総代会においては、定款の変更、土地改良事業計画の設定、変更、土地改良事業の廃止、連携管理保全計画の認可申請、役員の改選、規約の設定、変更及び廃止、管理規程の設定、変更及び廃止、利水調整規程の設定、変更及び廃止、合併、解散、組織変更、法第83条の2第3項の規定による権利義務の継承その他重要な事項を除いて、急施を要することが明白である事項に限り、あらかじめ通知した事項以外の事項であってもこれを議決することができる。

第16条 経費の収支予算を議案の全部又は一部とする総代会を招集して、総代の半数以上の出席がないため、さらに20日以内に同一の目的で招集された総代会の議事は、経常経費の収支予算並びにこれに伴う賦課金及び夫役現品の賦課徴収の時期及び方法に限り、総代の3分の1以上が出席し、その議決権の過半数で決することができる。

(議長)

第17条 総代会の議長は、出席した総代のうちから当該総代会で選任する。

(総会)

第18条 第13条から前条までの規定は、総会について準用する。

第3章 役員

(役員の定数)

第19条 この土地改良区の役員定数は、理事24人及び監事3人とする。

2 前項の理事定数のうち、1人は学識経験者で土地改良区の運営に資する十分な知見を有する者とする。

3 第1項の監事定数のうち、2人は組合員とし、1人は法第18条第7項各号の全てに該当する者とする。

(役員の選任)

第20条 役員は、総代が総代会において選任する。

2 この定款に定めるもののほか、役員の選任に関し必要な事項は、附属書役員選任規程で定める。

(理事長)

第21条 理事は、理事長1人を互選するものとする。

(理事長の職務と職務代理)

第22条 理事長は、この土地改良区を代表し、理事会の決定に従って業務を処理する。

2 理事は、あらかじめ理事の互選によって定められた順位に従い、理事長に事故があるときはその職務を代理し、理事長が欠員のときはその職務を行う。

3 前項で定められた順位の1位、2位の者を副理事長とする。

(事務の決定)

第23条 この土地改良区の事務は、理事の過半数により決するものとする。ただし、規約の定めるところにより、軽易な常務については、理事長の決するところによる。

(監事の職務)

第24条 監事は、少なくとも毎事業年度2回この土地改良区の業務及び財産の状況を監査し、その結果につき総代会及び理事会に報告し、意見を述べなければならない。

2 監査についての細則は、監事がこれを作成し、総代会の承認を受けるものとする。

(役員の任期等)

第25条 役員の任期は4年とし、その就任の日から起算する。ただし、法第29条の3第1項及び第134条第2項の規定による改選、法第136条の規定による議決の取消による選任並びに補欠選任によって選任される役員の任期は、退任した役員の残任期間とする。

2 前項ただし書に規定する選任が、役員の全員にかかるときは、その任期は、前項ただし書の規定にかかわらず4年とし、その就任の日から起算する。

(役員の失職)

第26条 理事又は監事がその被選任権を失ったとき又はその所属する被選任区を異動したときは、その職を失う。

第4章 経費の分担

(経費分担の基準)

第27条 第4条第1項各号（第3号を除く。）の事業に要する経費に充てるための賦課金及び夫役現品は、予算の定めるところにより、組合員に対し、当該事業の施行に係る土地につき地積割に賦課する。

2 第4条第1項第3号の事業に要する経費に充てるための賦課金及び夫役現品は、予算の定めるところにより、組合員に対し、当該事業の施行に係る土地につき、各區別に規約に基づいて定める土地の地積に比例して賦課する。ただし、換地処分の公告のあった後においては、当該換地処分に係る換地計画において定められた換地交付基準地積に比例して賦課する。

3 この土地改良区の所属する土器川右岸土地改良区連合の事業に要する経費に充てるための賦課金は、予算の定めるところにより、組合員に対し、当該事業の施行に係る土地につき地積割に賦課する。

4 前3項の規定にかかわらず各事業に共通する土地改良区の運営事務費に要する経費に充てるための賦課金は、組合員に対し、この土地改良区の地区内にある土地の全部につき地積割に賦課する。

(負担金及び分担金)

第28条 この土地改良区は、法第90条の規定に基づき国営土地改良事業の負担金を負担する。

2 前項の負担金に充てるための賦課金は、組合員に対し、当該事業の施行に係る土地につき各地域ごとに地積割に賦課する。

第29条 この土地改良区は、法第91条の規定に基づき県営土地改良事業の分担金を負担する。

2 前項の分担金に充てるための賦課金は、組合員に対し、当該事業の施行に係る土地につき各地域ごとに地積割に賦課する。

(賦課徴収の方法)

第30条 法第36条の規定に基づく賦課金及び夫役現品の賦課徴収の時期及び方法並びに夫役現品の金銭換算の基準は、総代会で定める。

(夫役の履行)

第31条 夫役を賦課された者は、その便宜に従い、本人自らこれにあたり、又は代人をもってこれを履行することができる。

2 前項の規定による履行については、金銭をもって代えることができる。

(特別徴収金)

第32条 法第36条の3の規定に基づく特別徴収金は、土地改良法施行令第47条の規定に該当す

る場合において当該返還すべき補助金等の額に相当する額を徴収する。

第33条 この土地改良区は、法第90条の2及び第91条の2の規定に基づき、国営土地改良事業及び県営土地改良事業に係る特別徴収金を負担する。

2 前項の場合には、当該特別徴収金に充てるため、その特別徴収金の原因となった行為をした組合員から、当該特別徴収金に相当する額を徴収する。

(督促)

第34条 法第39条の規定に基づく督促は、その納付期限後60日以内に督促状を発してこれをするものとする。

(過怠金)

第35条 第27条、第28条、第29条、第32条又は第33条の規定により賦課された賦課金又は夫役現品につき、これを滞納し、又は定期内に履行せず、若しくは夫役現品に代わるべき金銭を納めない場合には、その滞納の日数に応じて金100円につき1日金4銭の延滞金並びに督促状を発した場合には督促手数料100円を過怠金として徴収する。

2 前項の滞納金又は過怠金を市町が処分する場合には、さらにその徴収金額の100分の4に相当する額を過怠金として徴収する。

3 前2項の過怠金は、特別の事由があると認める場合に限り、理事会の決定によりこれを減免することができる。

第5章 土地改良区連合の議員

(議員の選出)

第36条 この土地改良区が選出すべき土器川右岸土地改良区連合の議員は、総代会において長尾地区、羽間地区及び造田地区の組合員からそれぞれ選出する。

(議員の失職)

第37条 前条の規定により選出した議員が組合員でなくなったときは、議員の職を失う。

第6章 雑 則

(係及び委員会)

第38条 この土地改良区の事務を分掌させるため、規約の定めるところにより、理事会の補助機関として係を置くことができる。

2 この土地改良区の事業の運営を公正かつ適切にするため、規約の定めるところにより、理事会の補助機関として委員会を置くことができる。

3 理事会は、前2項に規定する各係又は各委員会ごとに担当理事を定める。

(加入金)

第39条 新たにこの土地改良区の地区に編入される土地があるときは、その土地につき加入金を徴収する。

- 2 前項の加入金の額は、10aにつき金1,000円の範囲内において総代会の議決により定めることができる。

(賦課金以外の徴収金についての過怠金)

第40条 前条の規定による加入金、法第43条第2項の規定による決済により徴収すべき金銭、法第53条の8第2項の規定により徴収すべき金銭、同条第3項の規定により徴収すべき仮清算金及び換地計画において定める清算金については、第35条の規定を準用する。

(基本財産)

第41条 この土地改良区に基本財産を設けることができる。

- 2 前項の基本財産の設定、管理及び処分に関しては、規約で定める。
- 3 この土地改良区は、その管理する土地改良施設(当該土地改良施設と密接に関連する施設を含む。)について、将来行われるべき当該土地改良施設の更新のために行う当該土地改良施設の変更に必要となる費用に充てるための資金を、前項の基本財産として積み立てるものとする。

(財産の分配の制限)

第42条 この土地改良区の財産については、組合員に分配することができない。

(残余財産の帰属者)

第43条 この土地改良区が解散(合併による解散を除く。)した場合における残余財産は、解散のときにおける理事会の議決により選定した地方公共団体、他の土地改良区又は土地改良施設の管理を行う認可地縁団体若しくは一般社団法人に帰属させる。

- 2 前項の理事会の議決により残余財産を帰属させる者を選定しようとするときは、あらかじめその者の承諾を得ておかなければならない。

(事業年度)

第44条 この土地改良区の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(電磁的方法)

第45条 この定款の規定により、書面を交付することとされる通知その他の行為については、規約の定めるところにより、書面の交付に代えて、電磁的方法により行うことができるものとする。

- 2 この定款の規定により、作成、保存又は縦覧を行う書面については、規約の定めるところにより、書面に代えて、電磁的記録により行うことができるものとする。

(委任)

第46条 この土地改良区の管理運営に必要な事項は、この定款に定めるもののほか、規約で定める。

附 則

- 1 この定款は、認可の日（令和3年1月29日）から施行する。

附 則

- 1 この定款は、認可の日（令和4年4月15日）から施行する。

附 則

- 1 この定款は、認可の日（令和5年3月31日）から施行する。

附 則

- 1 この定款は、認可の日（令和7年3月31日）から施行する。

附 則

- 1 この定款は、認可の日（令和8年4月 日）から施行する。